

## 南半球便り（その50）：「ジャパナルー2021」（日本祭り）

12月21日

先週末には8回目のシドニー出張をしてきました。主眼は、シドニーの日豪関係団体が官民連携で実現した日本祭り「ジャパナルー2021」関連行事への出席でした。

### 1. ジャパナルーって何？

英語で「Japanaroo」と書けば、ピンとくる方もおられるでしょう。要は、「Japan」と「kangaroo」を掛け合わせた造語。日本文化・芸能をオリジナルのまま紹介するだけでなく、日本と豪州とのコラボを心がけたお祭りが展開されたのです。



Japanaroo のロゴ及びキービジュアル

日本出身のヨシダ・ケンタロウ氏、豪州出身のMULGA氏の  
両アーティストの「コラボ」により描かれました

17日夜には、由緒あるタウンホールにて記念コンサートが実施されました。オープニングは、シドニーさくら合唱団による「ふるさと」合唱で幕開け。続いて、人呼んで「豪州の加山雄三」なる国民的歌手カマールによる日豪両国歌の斉唱。そして、ニュー・サウス・ウェールズ (NSW) 州総督のビーズリー女史と私が挨拶をしました（私の挨拶文は[こちら](#)でご覧頂けます。）



スピーチを行う  
NSW州ビーズリー総督



人呼んで「豪州の加山雄三」カマール氏による両国歌斉唱（バックコーラス：シドニーさくら合唱団）

## 2. 味わい深いコンサート

コロナ禍を吹き飛ばす和太鼓の響き，ロックダウン下で心労を重ねた胸に染み渡る琴の音，新しい年に向けて限りない元気を与えてくれる津軽三味線の勢いなど，魅力ある演奏が次から次に繰り出されました。

そんな中で豪州ならではの出し物は，風の音や鳥の鳴き声を再現するような楽器「ディジリドゥー」。独特の音色に心揺さぶられ，強く印象に残りました。

また，アボリジニ文化と日本の着物とのコラボを目指したパフォーマンス「WABORI」のなんと幻想的なこと！会場の方々から，感嘆の余り溜息が聞こえました。

→豪州の伝統楽器「ディジリドゥー」  
と津軽三味線、和太鼓のコラボ



←アボリジニ文化と着物のコラボ  
「WABORI」パフォーマンスの様子

内容豊富で多彩なコンサートに、ビズリー総督夫妻やメイソン=コックス NSW 州議会上院議長夫妻から暖かい賛辞が寄せられ、非常に嬉しく思いました。

### 3. チャッツウッドでのお祭り

翌日は、シドニー西方郊外のチャッツウッドでの日本祭りに参加。実は、シドニーでは例年数万人規模の参加者を得て大きな日本祭りが開かれてきたそうですが、コロナ禍の影響でここ2年間は開催できなかった由。漸くロックダウンが解除され、久しぶりに開催できることとなったのです。心配だった天気も、晴れ渡りました。

主催者の歓びはひとしおで、会場を隈無く案内して下さったコステロ久恵・シドニー日本クラブ会長、水越有史郎副会長をはじめとする関係者の皆様のご尽力には頭が下がりました。

30度を超える夏の熱気には押されましたが、お陰様で、屋台で焼き肉弁当、たこ焼きなどに舌鼓を打ち、冷えた抹茶で元気を回復させてもらいました。



大盛況の会場では、タコ焼や焼きそばなど、日本の祭り屋台でおなじみの食事が

知香流生け花や上田宗箇流茶道、さらには極真空手や日本舞踊の実演を間近で堪能できたのも、3万1千人の在留邦人を抱えるシドニーならではの、充実したラインアップでした。手作りワークショップの水引、子供たちによる青空書道もアイデアが光りました。やりたくても今まで踏み切れずにいたコスプレの機会も得られました（笑）。



生け花（左上）、茶道（右上）、青空書道（左下）、コスプレ体験（右下）

アットホームで老若男女誰もが楽しめるような祭りの雰囲気の中、ステージで繰り広げられたショーでひととき人目を集めたのが、TBSシドニー支局の飯島通信員による琉球ソングでした。

自作の「奇跡の島」を歌い上げる美声。加えてテレビマンならではの絶妙の話術。唸りました。(TBSの報道振りは、[こちら](#)をご覧ください。)



Hiroki Iijima & Sydney Sanshin Club による「奇跡の島」

女兒によるチアリーディングにも、目を奪われました。30名は超えるだろうチアリーダー達の炎天にめげない活躍。おそらくは日本人と豪州人双方の両親に恵まれたであろう彼女たちの無垢な表情と真剣な眼差しに魅せられ、祭りのコンセプトである日豪コラボの無限の可能性を実感しました。



Sydney Sakura Kids Cheerleaders によるパフォーマンス

#### 4. ケン・ドーン・ギャラリー訪問

ジャパナルーは、コンサートや日本祭りだけに限られませんでした。雑誌「HANAKO」の表紙を15年以上にわたって飾った芸術家ケン・ドーン氏のギャラリーを訪問。ジャパナルーを機に、同氏は日本をテーマにした作品展を開催していたので、それを鑑賞すると同時に、歓談させていただきました。

東京の夜景の美しさや、日本人の勇敢さを称える同氏の心温まる言葉を聞いた際、日豪の絆を支える基礎が、相互の尊敬と寛容にあることに思いを致しました。



ケン・ドーン氏自らギャラリーを案内、  
更にお土産に美しいスカーフをいただき感激

#### 5. アレグザンダー下院議員との夕食

さらに嬉しかったのは、紀谷総領事の計らいで、ジョン・アレグザンダー連邦下院議員夫妻と夕食を共にしつつ、じっくりと懇談できたことです。

ジョン・アレグザンダーといえば、豪州では知らない人は居ないほどの有名人。1977年デビス・カップで豪州を優勝に導いたテニス界のスター。日本では、坂井選手や神和住選手が活躍していた時代です。

実は、同議員とはかねてからキャンベラで、豪州への高速鉄道の導入を巡って何度も意見交換を重ねてきた間柄です。「豪州に新幹線を」との思いを共有するメートとの間では、シドニー湾に夜の帳が降りても話が尽きることはありませんでした。



ジョン・アレグザンダー夫妻、JR 東海シドニー田邊所長夫妻と（紀谷シドニー総領事公邸にて）

## 6. 一年の終わりに

藤原正彦さんの数々の名言の中で、特に私が好きな言葉に「外国で暮らすということは、日本を常に、そして過剰に意識することである。」との言葉があります。

シドニーでのジャパナルー。日本を過度に意識し、さらには日本人であることに限りない誇りを覚える瞬間でもありました。そうした日本を温かく迎え入れ、友好をいっそう増進させようと尽力している豪州の友人達のありがたさに感謝の念を抱きつつ、年の瀬を迎えています。

山上信吾